

さいたま市 退職校長会 会報

発行責任者
高取 廣美

次世代に継承すべき

貴重な財産を：

さいたま市退職校長会

会長 高取 廣美

皆様におかれましては、日頃より、本会事業へのご理解・ご協力に感謝しております。今年度も、前年度に引き続き、以下の二点に視点を置いて本支部の充実・発展を目指します。

①会員の親睦と福利厚生については、各班の特色ある事業の共有と交流を進め、夫々の班活動の活性化と充実に努めます。
②教育の振興と地域の発展への寄与については、本市教委が進めるコミュニティスクールの協働活動参加への輪を広げます。

昨今の日本人気の世界的な高まりの理由として、円安による割安感、治安の良さと清潔感や高品質な食文化、伝統と現代が混在する景観、そして「おもてなし」が挙げられます。日本人の親切で丁寧なサービスやマナーの良さという国民性は次世代に継承すべき貴重な財産です。八十余年前、日本の敗戦が濃厚だった頃、パリの某晩餐会で「日本人は貧しい。しかし高貴である。世界でどうしても生き延びて欲しい民族を唯一挙げるとしたらそれは日本人です。」とスピーチしたのは、フランスのポール・クロードル氏です。駐日大使をしていた時、関東大震災に遭遇し、日本人の価値ある行いに敬意を持ったとの事……

コミュニティスクールは地域と共に子ども達の学びと成長を支える取組で、地域の方々の協働活動に子ども達が主体的に関わりとうとするエージェンシーを育みます。同時に、大人達の姿から多くのことを学び、地域の担い手として成長してくれることを目指しています。一方で私達自身にとっても、子ども達との協働は生き甲斐にもなり健康寿命にも繋がると 생각합니다。会員の多くは、学校評議員や学校地域連携コーディネーター及びSOLAR—むサポート、各教科等の講師、自治会の役員等、様々な形で学校や地域に貢献しています。更に、こども達との協働活動参加を通して我が国の貴重な財産の次世代への継承に努めて参りたいと考えます。



高取 廣美 会長

目次

◇巻頭言

さいたま市退職校長会
会長 高取 廣美

1

◇さいたま市立小学校校長会

会長からのメッセージ
さいたま市立小学校校長会
会長 河野 秀樹様
(美園小)

2

◇さいたま市中学校長会

会長からのメッセージ
さいたま市中学校長会
会長 大河内 範一様
(南浦和中)

3

◇令和八年度さいたま市退職校長会定期総会 概要

4

◇教育情報

「令和八年度教育行政方針」の概要
さいたま市教育委員会

5

◇談話室 〈私の一言〉

福田 和子・小川 直美
相川 光彦・桑原 裕通
栗原 巖・関 修
中川 昇次・吉野 寿一

6 7 8 9

◇心覚え ◇編集後記

題字…高取 廣美

10

さいたま市立小学校 校長会会長からの メッセージ

地域づくりの
核としての学校



さいたま市立小学校校長会
会長 河野 秀樹
(美園小学校)

今年度からさいたま市立小学校校長会は、新しい時代の学びを実現する大和田小学校というどり学園小学部が加わり、一〇六人の校長で組織されるようになりました。

私はこれまで三校で校長を務めてきました。それぞれ学校規模が異なるだけでなく、その背景にある歴史や地域の特徴も

異なりました。農地が広がる自然豊かな地域、公共施設やマンションが広がる地域、旧住民と新住民が共生する地域など。私ができるだけ地域に足を運び、地域の方々とのコミュニケーションを大切にし、関係性を良好に保つように努めてきました。

現在さいたま市では、全ての学校に学校運営協議会が設置され、学校だけでは担いきれない課題に対して地域と共に取り組む体制づくりを推進しています。今年度からは、学校の基本的な方針に業務量管理と健康確保措置の実施についても承認を得ることになりました。私の勤務校では、昨年の協議会で文科省が新たに示した「学校と教師の業務の三分類」について熟議を行いました。委員の中には、未だ学校は何でもしてくれるところとの認識が多くあり、登下校時の通学路における見守り活動については、保護者や地域の方々の実情から不断の見直しが必要

なことが認識されました。

昨年視察した福島県の相双地区で、地元や全国の校長らと懇談する機会がありました。この地区では複合災害によって児童数が激減し、学校が閉校してしまつたところもありました。そして未だに避難先で教育活動を行つてゐる学校があることや、十五年という年月がコミュニケーションを壊してしまつたことを知りました。「復興は道半ば」であるが「学校は復興の最大の拠点」との信念のもと、様々な困難や課題に向き合つてゐる校長の姿に胸が熱くなりました。また、京都の校長から「京都では学制発布の三年前から学校ができていた。都が東京に移つたことで人口が減り、まちが衰退の危機に直面したとき、人々がまちの活力を取り戻すには人づくりが大切であると考え、お金を出し合うなどして学校をつくつた」と聞きました。まちづくりに学校は欠かせないもので、昔から

学校を核とした地域づくりを行つてきたことを知ることができました。

校長は一人職です。自分一人では行き詰まりを感じることもや考え方が独りよがりになることがあり、様々な方々との交流が不可欠です。全国の校長や校長を退職された方々、地域の方々と教育課題を共有することは、自校の課題解決をすすめる上で大変有効です。環境や考え方が異なる他者と対話し、違いを知る。この違いの中にこそ学びがあります。これからも、学ぶ、学び合う校長の集まる会として、目先のことにとらわれず、物事を多角的に捉え、原点に戻つて方策を探り、謙虚に耳を傾けることを大切にしていきたいです。結びに、高取廣美会長をはじめ、さいたま市退職校長会の皆様には、校長としての在り方や学校経営につきまして、今後とも御指導を賜りますようお願い申し上げます。

さいたま市中学 校長会会長からの メッセージ

メッセージ

「倅せさがして」

笑門来福く子どもたちと共に、
笑顔の輪を広げる



さいたま市中学校長会

会長 大河内 範一

(南浦和中学校)

社会は今、大きな変化の流れの中にあります。価値観は多様化し、先行きの見えにくい時代になりました。このような状況は、家庭や地域のみならず、学校に求められる役割にも静かに、しかし確実に影響を及ぼしています。さいたま市中学校長会(以下、本会)としても、これまで

当たり前としてきた在り方を改めて見つめ直し、子どもたち一人ひとりの「倅せ」とは何かを問い直す一年としていきたいと考えております。

さいたま市がかねてから掲げている「Well-being(幸せ)」を保障する教育」は、特別な取組によって、突然実現するものではありません。安心して過ごすことができる学校、学ぶ喜びを実感できる授業、互いを認め合える人間関係…、そうした一つ一つの積み重ねの中に、子どもたちの笑顔は育まれていきます。私たち校長は、その基盤となる環境を整え、日々の小さな変化や子どもたちの表情に寄り添いながら、共に歩む存在でありたいと考えています。

学校を取り巻く環境は、確かに大きく変化しています。学びの多様化、デジタル化の進展、部活動の在り方の転換、教職員の働き方改革など、学校経営において向き合う課題は少なくあ

りません。しかし、そのような時代だからこそ、改めて立ち返るべき問いがあります。「今、この学校に笑顔はあるか」と自らに問いかけることが、何よりも重要ではないかと思えます。子どもたちが自らの存在を肯定し、安心して挑戦し続けられるよう、学校はその土台を支え続ける場であり続けたいと考えています。

本会は、これまでも「不易と

流行」を大切にしてきました。

どんなに時代が移り変わっても、子どもたちを中心に据え、命を守り、心を育てるという使命に変わりはありません。一方で、新しい時代を生きる子どもたちには、その時代に即した学びや環境づくりも求められています。変わらない価値を確かな礎としつつ、柔軟に変化を受け止め、各校の実情に応じた学校づくりを確実に進めていきたいものです。

「笑門来福」という言葉は、笑顔そのものを目的とするのでは

なく、その背景にある信頼や安心、前向きな挑戦の積み重ねを大切にする姿勢を表しています。学校が温かな空気に包まれていれば、そこに集う子どもたちや教職員も、自然と前を向くことができます。本会には、同じ思いを抱く仲間がいます。互いの悩みや実践を共有し、支え合いながら、よりよい学校の姿を共に描いてまいります。

私たちはこれからも、子どもたちと教職員の「守り手」です。その覚悟を胸に、学校に集うすべての人の笑顔が少しずつ広がり、それぞれが自分なりの幸せを見つけ、一歩ずつ前へ進んでいけるように、「倅せをさがして」、今年度も本会の活動を推進してまいります。

今後とも、高取廣美会長様をはじめ、退職校長会の皆様方には、本会及び現職校長の「倅せをつなぐ先達」として、より一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和八年度 さいたま市退職校長会 定期総会 概要

令和八年度さいたま市退職校長会定期総会が、五月十九日（火）ブリランテ武蔵野四階において開催された。

ご来賓には、さいたま市教育委員会学校教育部長・丹能成様、埼玉県退職校長会会長・新井俊一様、さいたま市立小学校校長会会長・河野秀樹様、さいたま市立中学校校長会会長・大河内範一様をお迎えした。

一 開会行事

星野 貞邦 副会長の司会進行で、佐藤 薫 副会長が開会のことばを述べた。

昨年度ご逝去された九名の会員のご冥福を祈り黙祷する。

高取 廣美 会長のあいさつで

は次の話があった。

会長就任二年目に当たり、昨年度に引き続き会の目的二点の達成に向け、各班の特色ある活動の共有と交流活動の充実、市の取組であるコミュニティ・スクールの協働活動への参加や協力による支援を進めたい。

続いて、高取会長より七名の新会員の紹介があった。

次に、ご臨席いただいたご来賓から祝辞をいただく。

さいたま市教育委員会学校教育部長・丹能成様からは教

さいたま市退職校長会定



育委員会を代表して、「昨年度の子どもたちの活躍や学力の様子、

さいたま市誕生二十五周年を迎え、次の次元に向け、①未来を拓く新たな学びのステージに向けた教育DXの本格展開、②す

べての子どもに届く学びの実現に向けたカリキュラム・マネジメントの充実、③エージェンシーを育てるコミュニティ・スクールの深化と発展」埼玉県退職校長会会長・新井俊一様から

は、「よりあたたかく、よりフェアであり、より誇り高い退職校長会を目指してほしい」、さいたま市立小学校校長会会長・河野秀樹様からは、「次期学習指導要

領の方向性、①主体的、対話的で深い学びの実装、②多様性の包摂、③実現可能性の確保を踏まえ、小・中学校が連携して学

校経営を推進し、政策提言できる校長会を目指す」との話があ

った。

二 議事

大宮班の橋本 栄 会員が議長に選出され、「令和七年度事業報告並びに決算報告」が承認された。

次に、令和八年度役員として、三名の改選を含めた役員案が承認され、「令和八年度事業計画案並びに予算案」について拍手をもって承認された。

三 閉会行事

秋元 千代子 副会長が閉会のことばを述べ、定期総会が無事終了した。会員の総会参加者数は、三十五名であった。

四 懇親会

総会終了後、一階のレストランで懇親会が開催され、来賓の方々と交えて有意義に懇親を深めることができた。

（文責 遅塚 恵美子）

教育情報 さいたま市の教育 ～「令和 8 年度教育行政方針」の概要～

全ての子どもが多様で豊かな可能性を開花させるために
技術と人間性が調和する未来志向の教育の推進“Technology & Heart: Learning for the Future”

【令和8年度のさいたま市教育の進むべき3つの方向性】

Ⅰ. 未来を拓く、新たな学びの章へ —教育 DX の本格展開

これまで推進してきた「さいたま市スマートスクールプロジェクト」の成果を基盤とした「さいたま市教育 DX グランドデザイン」のもと、これまで積み重ねてきた改革をさらに進化・発展させ、デジタル学習基盤を活用した新たな「学び方」「教え方」「働き方」改革に取り組んでまいります。その具体的な一歩として、令和7年度に更新された児童生徒用端末と、今後導入予定の教職員向け次世代型校務支援システムを連携させ、本グランドデザインを基盤に「教育の質」と「働き方」を両輪とした改革を進め、いよいよ新たなステージへと踏み出します。

教育 DX は、単なる効率化ではなく、体験や交流などリアルと掛け合わせることで、全ての子どもたちが希望を持ち、自分らしく輝ける新たな章の扉を開ける可能性を持っています。教育委員会では、その可能性を最大限に生かし、Technology & Heart：技術と人間性が調和する未来志向の教育を、力強く推進してまいります。併せて、教育 DX を通じた業務の効率化による「量的な働き方改革」と、教職員の専門性の向上を軸とした、やりがいなど「質的な働き方改革」を両輪として推進してまいります。

Ⅱ. 全ての子どもに届く学びのために —カリキュラム・マネジメントの充実

これからの教育には、子どもたち一人ひとりの多様な背景や実態に応じて、学校が自らの目標を明確にし、家庭や地域と連携して柔軟に教育課程を編成・実践していくことが不可欠であると考えております。教育委員会では、その創造的な取組の推進を支えるツールである「カリマネデザインマップ」の活用を一層促進し、地域に根差した質の高い教育活動が着実に展開されるよう、全力で支援してまいります。

また、新設された「いんどり学園」は、不登校等児童生徒一人ひとりの実態に応じて、学習内容や授業時数を柔軟に編成する特別な教育課程を通じ、全ての子どもたちの学ぶ権利の保障を目的に多様な学びのあり方を追求する本市独自の取組であり、先進的な教育の実践拠点です。デジタルと対面の良さを生かし、個に寄り添った教育を展開するとともに、「いんどり学園」での実践が今後の各学校における支援体制の充実にも大きく寄与するものと考えております。「誰一人取り残さない教育」の実現に向けて、「いんどり学園」から確かな一歩を踏み出します。

Ⅲ. エージェンシーを育てるコミュニティ・スクールの力

— 共に語り、共に創る、未来の学びのかたち

子どもたちは、児童会・生徒会をはじめとする自治的な活動に加え、自らの声が学校づくりや地域の課題解決に生かされる経験を重ねることで、自らの学びが地域社会とつながっていることを実感し、未来の主権者としての力をはぐくんでいきます。そこで重要となるのが、子どもたち自身が学校運営協議会に参画し、学校と地域のあり方や未来について意見を交わす機会を保障することです。子どもたちが自ら学び、考え、主体性を持って行動する力、すなわち「エージェンシー」をはぐくむためには、学校と地域が連携し、子どもたちの声を生かす仕組みが不可欠です。学校だけでは担いきれない課題に対して、地域とともに応えていく体制を築くことこそが、コミュニティ・スクールの真の価値であると考えております。また、こうした取組を通して、子どもたちは自らの意見が尊重され、地域社会に影響を与える実感を得ることで、自信と責任感をはぐくみます。そして、多様な他者と対話し、協働しながら課題を解決していく経験を重ねる中で、主体的に社会参画する「持続可能な社会の創り手」へと成長していきます。

談話室

— 私の一言 —

夢の詰まった水族館

福田 和子



海水の中をゆらゆら泳ぐ魚を眺めると癒されます。私の心に強く残る水族館を紹介します。

その一 【加茂水族館】

昭和三十一年に設立の水族館。バブル崩壊後に客が落ち込み倒産寸前、村上龍男氏は並々ならぬ努力を続けた。ある時、観客の親子がクラゲの前で動かない姿を見て『これだ』と感じ、クラゲに特化した水族館とする。客は少しずつ戻る中、村上氏は、さらなるアイディアとして、「クラゲを食べる会」案に誰一人本気にしない。『これは面白くなる』と。その妙なプランは功を奏し、クラゲアイス、クラゲラーメンなど現在も人気だ。平成二十年に下村侑博士のノ

ーベル化学賞は、『緑色蛍光タンパク質がオワンクラゲ由来』と報道され、来館もされた。現在はクラゲ世界一水族館に成長。

その二 【鳥羽水族館】

オープン翌三十一年、小三の時の家族旅行の記憶が懐かしい。

後に、鳥羽水族館館長の中村幸昭氏の娘さんとの出会いがあり、創設の経緯をお聞きした。

中村館長は、当初新聞社に入社したが、昭和二十八年、台風十三号の襲来、実家の海産物問屋の復興に向けて家業を継ぐことになる。

ミキモト真珠島ができたのがその頃、客は島へ渡る小船の待ち時間に、中村家丸幸水産の生簀の魚を珍しそうに眺めている。その様子から中村氏は「どうせなら魚を見せてお客さんに喜んでもらうのはどうや」精神でスタートした。周囲から、いつまで続くかと不安がられたが、現在、ジュゴン、ラッコに会えるのは、鳥羽水族館だけになった。お二人の館長の夢に向かつて、のチャレンジと努力に感銘して、何回訪れても楽しめます。

いつまで働く？

小川 直美

校長を定年退職して、はや十年が経ちました。公民館長三年、幼稚園長として七年、年限となり、今年度はゆっくり自分のことをとを考えていた矢先、次の仕事をいただくことに。

同じ学校法人の保育専門学校で常勤として講義を担当しております。幼稚園経営において、音楽教育を充実させ、子どもたちに直接、音楽指導を行ってきましたが、現在も、高校卒業後の学生に、子どもの音楽表現指導に関わる講義を行っています。音楽大学卒業後、音楽専科として就職して以来、五十年近く音楽に関わってこられていることは本当にしあわせなことと感じています。

孫育てのサポートをあてにしていた娘たちは少々がっかり気味。ママは一生働くのだね、と。



今から百年近く前の時代に生きた、渋沢栄一氏の「四十、五十は、はなたれ小僧、六十、七十は働き盛り、九十になって迎えがきたら百まで待てと追い返せ」の言葉を胸に、幼児教育の仕事を目指す若き学生たちを育て、明るい未来社会を築くべく、精進しております。

幼児教育にかかわるようになり、その重要性を再認識し、海外の教育事情の視察も進めており、保育先進国、スウェーデン、フィンランド、そしてシンガポール、スイスの幼児教育視察に行き、研究を進めています。そして、英会話、乗馬のレッスン、旧友との食事会、日帰り温泉、孫たちのお相手等々、プライベートタイムも大切にしながら、「必要とされているということはずばらしい！」と、周りの皆様から励まされながら、いつまで働くのかわからないままに、日々過ごしているという近況です。

楽しいことは、

そこにあるんだ！

相川 光彦

校長になって、妻よりも帰宅時間が早くなり夕飯の準備をすることが多くなりました。料理は、同じ分量の調味料でも、同じ味が出ません。順番が違えば、出来栄が変わってしまいます。その面白さの虜になり、今では、ほぼ毎日、料理をしています。

お醤油の量を変えてみたりオイスターソースを入れたりするとおいしくなったりなかったりします。突然閃いて昆布茶を入れてみたり、味醂を入れたのと入れないのを比べたりしていると、まるで、理科の実験のようです。



外食で美味しかったものを再現しようとすものも、You Tubeの動画やレシピを見てつくるのも、また、新たな発見があります。

マツクのチキンナゲットを食べた時、自分でも作れそうだなと思い、鶏の胸肉を包丁でたたいているとき「エビでやったらどうかな？」とか。マツタケの味お吸い物で茶碗蒸しができる動画を見て、「面白そう。やってみよう」など思いつくままに包丁や鍋を握っています。一番のメリットは、余分なものが入らないこと、味付けを変えられることだと思います。

料理をしていると、下ごしらえがとても面倒になります。エビの背ワタを抜くのは、本当に面倒です。でも、そこで、手を抜くとジャリジャリして美味しくないことが多いです。「手は抜いても手間は惜しむな」と言い聞かせて日々台所に立っています。今では、和・洋・中華とレパートリーも増えて、「明日は何を作ろうかな」「お昼は何食べたい」とマイ包丁を片手に楽しんでいきます。

私の趣味

桑原 裕通



いつの間にか喜寿を過ぎ、家の中で過ごす時間が益々多くなりつつある今、それを楽しみのひとときにしようと思っているのが読書である。読書と言っても推理小説が中心である。そのきっかけになったのは若い教員時代に遡る。

中学校の数学の教員になって初めて三年の担任になったあの日の放課後、仲の良い同僚がやって来て、「これ最近読んだけどすごく面白いから読んでみな」と一冊の本を見せてくれた。それは清水一行の女教師という推理小説だった。元々推理小説は作者の創作した物語だから、読んでみたところ何の益にもならないと思っていたが、折角なので帰宅してから読んでみた。なるほど、小説の舞台が彼の住まいと同じ所沢ということで、

余計に面白さを感じたのだろうと察しながら、推理小説も案外捨てたものではないかも知れないと思うようになった。

それからしばらくして、別の同僚から紹介されたのが西村京太郎の寝台特急殺人事件だった。軽妙なタッチでテンポよく語られる内容がとても新鮮で気に入って、それ以来推理小説の虜になってしまった。

学校が休みの日には近くの図書館に行き、手当たり次第に本を借りて読むことが楽しみの一つになった。

管理職となって帰りが遅くなっても、仕事の疲れで趣味の読書の時間を奪われたくないとの思いから、短時間でも読むことを忘れなかった。

退職してから、愛犬の世話を始めたり、畑を借りて野菜を育てたりと生活のスタイルが随分変わったが、空いている時間にいつでも読めるように、手元には本だけは置くようにしている。

辞世の歌に遊ぶ

栗原 巖

後期高齢を迎えた頃、来し方行く末をより強く意識するようになった。自分の行く末はあらかじめ想定できる。死はそう遠くない時期に、必ずやってくる。

そこで楽しみながら、自分の生きてきた証しをしるしておうと思った。辞世を作ることである。

自分の人生における生き様や思いを、ことばに表わすために短歌を作り始めた。短歌を作る途中で、辞世とも言える歌が出来ればよいと考えた。

○朝ごはん食べて来たかと声かける一人遅れの男の子頷く
○道の駅わけあり林檎売られぬ
るあの教え子は元気だろうか

教員の頃、心に残った教え子を思い出す。

○妻病みて家事見習いが専業に
朝の厨に塩鮭を焼く

○退職し名刺交換する吾は「専業主夫」とて黙して渡す

厨房に入り料理がどうにか出来るようになった。

○生と死の四苦の二つを抱えた
る我を残して茜雲ゆく

○八十の齡（よわい）かさねて
ここにあり真夏の暑さわが
ものならず

暑い寒いと年を重ねることは人智が及ばない。

○老あぬれば今しなければいつ
やれるまずは秋刀魚を焼いて
食うなり

○今年また年越しそばで閉めく
くるあと二十回は食べたい
ものよ

遊び心をもって歌を詠んでいる。

歌でなくては言えないこと、
歌だからこそ言えることがある。

酒を飲みながら、時には団子を
頬張りながら、気軽に楽しんで
いる。

人生の締めくくりに、ひとつ
の歌に残せたという自己満足で
ある。

授業 随想

関 修

私は現在、都内の公立中学校を週三日訪問し、数学の授業を参観して授業者と話し合いアドバイスする仕事をしています。

ある日、定期テストの答案返却の授業で、平均点が五十五点

で目の前の生徒は九十二点、その隣の生徒は二十五点という場面に出会いました。その低得点

者のことを思うと「どうか数学を嫌いにならないでほしい、劣

等感をもたないでほしい、次のテストで挽回してほしい」と願

わずにはいられません。自分が現役の頃、このような場面は何

度となく経験しており、その都度、原因は「授業をしつかり聞

かない努力不足」といつの間にか決めつけ、自分の指導を反省

することはありませんでした。

低得点者を出さないための方策を考え出せないものかとの

思いが、授業を観ているうちに、だんだんと強くなってきています。勿論その方策は、得点の多寡によらず全ての生徒にとって有効なものが求められます。

一概に言い切れないが、私が今考えていることがあります。誤解を恐れず申し上げれば、それは、**数学のゲーム化**ということです。

子どもから大人までゲーム人氣は衰えず、禁止されても隠れてやる程夢中になることもあるようです。**数学のゲーム**も同様、熱中して楽しく遊べるものが開発され、遊んでいるうちに数学が習得されてしまうのが理想です。

ゲームとまではいきませんが「矢線の操作で学ぶ正負の数の加法、減法」という作業活動を考えました。正負の数の減法の苦手な生徒の味方になれると思います。今後も先生方と**ゲーム開発**を目指しながら作業活動を考えていきたいと思っています。

このごろ考えること

中川 昇次

退職して、5年目となりました。今までできなかったことに取り組み時間もできてきました。様々なことを考える時間も増えてきました。その中で、これまで美術教育に携わってきたこともあり、ものをつくることが、人の成長にどのように関わるのかを考えることがあります。

私は大学時代から木材を使った作品づくりをしています。大宮退職校長会の美術展にも出品する機会をいただいています。制作活動は、楽しいことばかりではありません。意図したようにならず、苦しみや悩み、歯がゆいことばかりです。なのに、どうして制作することをやめなかったのか。それは、出来上がって形になった時の喜びが大きいです。社会では、指示待ち、自分で

決められない人間が話題となっています。制作の過程は、自分で決断することの連続です。

社会のある場面において、失敗は許されないという風潮があります。制作を行うことで、「失敗したらやり直せばよい」、「失敗を活かせばよい」と考えられるようになります。

これらは、ものをつくること、人の成長にもたらす役割の一部だと考えます。

私の作品の特徴は、木目のつながる一枚の板でできているレリーフです。板上のデザイン画を糸のこ盤で切断して、凹凸をつけて固定します。作品により、木目が見える塗装を施します。

作品は、館岩少年自然の家のからまつ館の食堂前のフォレストギャラリーや教育研究所の地下一階のいりどり学園の職員室前に飾っていただいています。ご覧いただけましたら幸いです。

男が髪を伸ばすのは

吉野 寿一

再任用満期終了を一年後に控えた令和七年四月、床屋に行つて髪を整えた。この年は、職員四人のうち三人が異動となり、自分だけが残った。そのこともあり、雑務が増え、すっかり床屋に行かなくなった。少しずつ髪が伸びてきた。

週に一度の短大前期の講義を終えた頃、暑いこともあり床屋へ行こうと考えたが、ふと別のことも頭をよぎった。この年も例年のように酷暑が続く、出かけることも億劫なので、後期の講義の前に床屋に行けば良いと。

学生の頃、ショートボブくらいまで伸ばしたことはあったが、後期の講義が始まる頃にはそれよりもちよつと長くなっていた。人生の中で一番髪が長い時期を迎えたのだ。未知の領域に入ろうとしている。高揚感にも似た

感覚を得てきた。伸ばすだけ伸ばしてみるかという気持ちに変わってきた。十一月ごろには髪を後ろで束ねられるくらいまで伸びてきた。このころになると、洗髪が大変になったり、髪を乾かすためのドライヤーに時間がかかったりと、面倒な点が増えてきた。意外に億劫なものだ。

そんな時に、「ヘヤードネーション」のことを思い出した。以前、妻の勤務する学校で、髪をかなり伸ばしている男の子がいたこと。何か言われても気にしないでいたこと。そして、突然髪が短くなっていたことを聞いたことを思い出した。その子が、病気で苦しんでいる子の助けになるよう、自分の毛でかつらを作る手助けをしたことを。

恥ずかしながら、六十五にしてヘヤードネーションを始めよう、髪を伸ばし続けようと決意した。令和八年八月現在、必要な長さの半分である。あと、少し頑張って伸ばしてみよう。

心 覚 え

令和8年度さいたま市退職校長会 役員名簿

顧問	西村 皓(浦和)	竹本 昭剛(大)	関口 靖彦(浦和)	加々美健一(大)	桑原 裕通(与)
会長	高取 廣美(浦和)				
副会長	星野 貞邦(浦和)	新井 広(与野)	佐藤 薫(大宮)	秋元千代子(岩槻)	
監事	橘 克彦(浦和)	菊地 豊(与野)	有賀 勝(大宮)	新井このみ(岩槻)	
理事	山崎 俊(浦和)	松下 道夫(浦和)	木村 栄二(浦和)	高橋 正(浦和)	
理事	脇田 茂雄(浦和)	岡 義行(浦和)	武井 悟(浦和)	増田 藤雄(浦和)	
理事	浅見 茂男(与野)	菊池 悦夫(大宮)	渡邊 正道(大宮)	橋本 栄(大宮)	
理事	中山 正一(大宮)	中村 秀男(大宮)	渡邊 朋久(大宮)	新井 栄司(大宮)	
理事	西川 和利(大宮)	岡野 功(岩槻)	井上 修一(岩槻)		
事務局長	並木 昌和(浦和)				
幹事	大谷 慎也(浦和)	石川 信和(浦和)	笠原 実(浦和)	坂東 浩之(浦和)	
幹事	山岡 康幸(与野)	金子 強(与野)	星 美千也(大宮)	豊島 登(大宮)	
幹事	松田 泰成(大宮)	柴崎 邦夫(大宮)	駒宮 寿夫(大宮)	斎藤 栄一(岩槻)	
幹事	遅塚恵美子(岩槻)	染谷 隆(岩槻)			

令和8年度さいたま市退職校長会 会員数 [令和8年5月1日現在]

浦和班 155名	与野班 35名	大宮班 156名	岩槻班 45名	合計 391名
----------	---------	----------	---------	---------

さいたま市立小学校校長会 役員名簿

顧問	三島 公夫(三室小)	永山 誉(大宮南小)	
会長	河野 秀樹(美園小)		
副会長	佐野 公子(木崎小)	野津美智代(本太小)	大森恵美子(沼影小)
副会長	小野 圭司(与野本町小)	西谷 健児(鈴谷小)	
監事	引間 陽子(北浦和小)	玉川 徹(岩槻小)	
幹事長	竹谷 浩一(西浦和小)		
幹事	中野 緑(谷田小)	長谷場明博(仲町小)	宮本江津子(大門小)
幹事	高橋 周一(中島小)	竹間 智子(東宮下小)	
書記	目黒 良作(大久保東小)	馬場 智哉(大和田小)	
会計	小松 伸弘(指扇小)	山口 美保(太田小)	

さいたま市中学校長会 役員名簿

会長	大河内範一(南浦和中)		
副会長	田中 一秀(本太中)	浅見 正史(大宮東中)	森角由希子(桜木中)
副会長	長岡有実子(日進中)	越智 宏明(大砂土中)	金子 宜史(岩槻中)
幹事長	田中 和浩(宮原中)		
幹事	青木 貴(常盤中)	木和田美佐(原山中)	高久 正行(東浦和中)
幹事	小倉 弘一(白幡中)	坂口 洋美(美園中)	中村 篤(三室中)
幹事	内田 崇史(上大久保中)	亀井 隆司(大宮南中)	廣江 剛(大宮北中)
幹事	太田 鋭一(植水中)	永谷 和俊(春野中)	鈴木真由美(美園南中)
監事	吉田由美子(大宮西中)	正田真由美(与野南中)	

さいたま市立の学校 [令和8年5月1日現在] (特別支援学級含む)

学校種別	学校数	児童・生徒数	学級数	教職員数
小学校	106校	68,012人	2,552学級	3,452人
中学校	59校	30,886人	1,015学級	1,862人
中等教育学校	1校	936人	24学級	89人
高等学校	3校	2,880人	72学級	172人
特別支援学校	2校	113人	41学級	107人

令和8年度新設校：大和田小学校、いろどり学園(小学部・中学部)

ホームページも
ぜひご覧ください埼玉県退職校長会
さいたま市支部HP

編集後記

会報第44号をお届けいたします。令和8年度さいたま市退職校長会総会にて、本年度の事業及び予算が承認されました。本年度もどうぞよろしくお願いいたします。本号はその報告を含め、いただいた玉稿を中心に編集しております。ご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。(広報部担当幹事 豊島 登)